



ARKUS SAI

Adult Only

「生命の理を無碍にしてはならない」
錬金術師として学んだ際、固く教えられた事だったのに。
人は残酷なもので、モノと物の区別に鈍感になる。
より強いホムクルスを作りたい。
彼女は幾つもの生命を作り出し、そして捨てた。
それが作業と化した頃、軽率な行動の代償がもたらされた。

一度受けた生を惜しみ、死に抗うのは当然だ。
復讐か、悲劇を止めるためか、何かを欲しているのか
不自由な肉塊達は彼女の自由を奪い、恥辱の限りをつくした。
不快な粘液が体中を這いまわり敏感な肉芽を刺激する。
何本もの触手が彼女のまだ幼さの残る秘洞の奥を目指し蠢く。
彼女は不規則な動きで肉壁を擦られる度に熱い息をもらす。

それらは強かった。少なくとも彼女よりは…。






この時期の彼らに捕まったのは幸いだったのだからか？
未熟な狩人は春の陽気につられて歩いていくうちに、
彼らの集落まで迷い込んでしまった。

温かい日差しは先ほどまでと変わらない。
しかし今、彼女を包むのは甘い花の香りや軽やかな小鳥の声ではなかった。
咽るような汗と体液の発する臭いと、重く熱い吐息。
発情中の彼らにとって種族など微々たる問題だったようだ。

普段ならば彼ら戦士達は侵入者に対し、狂ったように吼え猛り、
どちらかが死を迎えるまで攻撃を止めない。
彼らには強い性闘争本能と同時に強い性情動も持っていた。
未熟な狩人は侵入者ではなく穴になっていた。
彼女の身体はひたすら貪られ続ける。
時折降り注ぐ熱い白濁と、粘度を増す水音だけが
彼女の時を刻んでいた。




「今日 Gvはイマイチだったから Pvで昇華したかったのに」
「い、今… Pvは…っん…イベント中ですから」
「あそこはヤルかやられるかの所なのっ」
「弁当広げて車座に和む場所でも、
お遊戯を観覧する場所でもないわ」
週末の夜、プロテラの一室で続けられるやり取り。
もうこの内容は3回目だった。

恍惚とした笑みを浮かべるハイプリーストは、拗ねた素振りを見せるが Pvに行く気などとっくに失せている。その足元で懸命に宥め奉仕するウイザードはその本心に気付く余裕がない。

「平和ボケして Pvにきてる奴等に SG したら…きっと面白い顔して死ぬわよ」
「…んっ、そんなのダメ…です…」
「技はずいぶん上達したのに、気持ちのほうは相変わらずヨワヨワねえ…」
「…すみませ…っんぷっ…」
「ほら、火照ったのを早く鎮めてくれないと眠れないから乗り込んじゃうわよ？」
「こっちの技も仕込んであげたんだからちゃんと見せなさい」
「は、はひっ…んくっ…」

「これ以上…装備なんてしてないです」
臨時広場から少し離れた木陰で一組のPTが集っていた。
スキルとは対照的に早熟な身体を日に晒すアコライト。
柔らかな日差しと周りを囲むPTメンバーの視線が白い肌を温める。
「俺達まだ弱いからさあ、狩場選びって慎重になるんだよねえ」
「そうそう。装備次第で行ける場所が変わるじゃん」
「…だから…もう、他に装備なんて身につけてません…」
僅かに身体をよじるだけで大きな双丘は揺れ、形をゆがめる。
その頂きの淡いピンクの蕾が徐々に赤みを増し尖りはじめる。


「んー…。女の子ってさ、まだ隠せるところがあるじゃん？」
先程まで豊かな乳房へ熱心に注がれていた視線が舐めるように下へ移動する。
「…!？」
新たな視線の行き先は固く閉じられた足の付け根だった。
「そ、そんなところ…」
彼らの目が一層ぎらついている事に危機感を覚えた。
しかしそれは遅く、彼女を囲む輪は狭まり彼らとの間は身ひとつ分もない。
「ちゃんと調べないとね」
「ついでにアコさんからも俺達の事見てもらおうか」
幾本もの手が彼女の肢体に伸びる。



様々な思惑が渦巻くフレイヤ大神殿。
ニルエン大神官は上手く立ち回ってきたつもりだった。
人々の秩序と安息を守る為には、立場を失うわけには
いかないと思っていたから。
しかし親しき者と異邦人の熱にうかされたのかもしれない。
彼らに向けて思わず差し伸べたその手は、悪意ある者達の
視線にも触れてしまった。

些細な緩みが彼女を混沌の坩堝に陥れた。
慈愛と威厳を持った彼女を取り巻くのは
尊敬や従順な信仰心だけではない。
堕ちた彼女に誰も遠慮はしない。
本来ならば許されない淫らな欲望を滾らせ
押し寄せる人波。

彼女はもう、失うものも保つものもない。
心も身体も剥き出しのまま深淵の中で
生きるしかないのだから。




「見た目は可愛いけれど、やっぱり畜生は畜生だな」
「俺の言ってる事がわからない？それとも我慢っていうの知らないのかな？」
「も、申し訳ございません…ご主人…さま」
足元の細かな震えに身体を強張らせながら、私はやっとの思いで謝罪の言葉を口にした。ここに来て覚えた言葉の1つ。もう何度使ったかわからない。

ここに来てからどれくらい経ったのだろう。ライドワードさん達の書庫は埃が溜まっているだろう。ドルイドおじ様はお掃除に来ない私を探しているかもしれない。

たまに訪れるニンゲン達のお洋服が綺麗で、お掃除するふりをして見ている。皆は危ないよって言ってくれていたのに…。

「まったく…きれい好きかと思ったら、君の下半身は次から次にそそくをする」
「申し訳…っ、ございません」
冷たい床に向かい黄色い放物線が飛沫をあげて描かれる。
私はそれを止めたくて下腹部に力を入れるけれど勢いは増すばかり。
むしろ重なり合おうとする秘肉が押し込まれた異物を締めつけ、ジンとした快感を返してくる。

ここに来てそれほど時間は経っていないはずなのに、私はずいぶん変わってしまった。ヒリヒリする痛みは嫌いなのに何か挿入（はい）ってないと落ち着かない。
「床そうじの前に、こっちのお掃除をしてからご飯にしようか」
「今日は下のお口でキノコを食べたまま、上のお口でお食事するんだよ」
「は、あい…」
「アリスはご飯いっぱい欲しいよね？だったら一生懸命、俺のココをお掃除してね」
「…はい…。ご主人様が私のために出してくれる白ポが大好きです…」



「魂の渴望をその身に受け入れるのだ」
様々な者達の果て無き欲望がソウルリンカーに転職する
彼女に注ぎこまれる。
身体の最も深い部分で繋がりが合い、ドクドクと彼女の中
で熱く脈打たれた。
何度も何人もが繰り返す。

大人しそうな外見の賢者だが、内に秘めた荒々しさが
腰使いからも伝わる。
薄い肌と肌がぶつかる乾いた音は非常に小刻みで、
細身だが固い怒張は花卉をえぐるように肉壺に入りに入っていた。

休むことを許されず、幾度となく絶頂を迎えた身体。
息をするのも辛いはずなのに、限界を感じない。

どれだけ過酷な儀式にも耐える…止まらない心臓
絶頂を迎えても衰えることを知らない…しおれない薔薇
激しく滾りをぶつけられなくても壊れることのない身体…ダイヤモンド
それらは彼女の元集う魂を受け止めさせようと働いていた。

三次職のクセに
ぜんぜん踊れないじゃん
何やってきたの？

あーこれじゃ
興行にならないよ
まいったなあ…

時間も無いし
君でもできる
演目に変えるよ？

あっ、ああっ

あっ、ああっ

ふん

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ガッ

ぐちゃ

又

又

まさかワンダラーの
まな板ショーが
見れるとはなあ

あっ

んんっ

うっ!
でるっっ!

踊りは酷かったけど
こっちのリズム感
はけっこういいぞ

大盛況で
よかったな
ねえちゃん

まとめて相手
してもらわないと
希望者多すぎだろ

は...
はひっ

僕は見習い鍛冶屋
ホワイトスミスの先輩に
師事を受ける毎日だ

今日のノルマは
終わったから

修行のほう
はじめよっか

んふっ

後輩クンの武器
今日は
プラスいくつまで
耐えられるかしら？

ほらほら
どんどん熱く
固くなってる

せ、先輩
僕…もうっ

鍛冶屋に大切なのは
スタミナと気力よ

僕の過剰精錬は
いつ成功
するだろう…

再録のページ



↑しふ子さん
単純におっぱいが描きたくて職は後付
でした。
おっぱい以外の塗りが…
すごくやっつけです。
いつも乳の色合いで苦戦するのですが
この絵は自分的には、いい色に塗れた
と思います。



↑ふえらぶりたん
線画作成を紙からデジタルに
移行しようとしていた時期の
絵…のハズ。
サイト上では誤魔化して
夜フィルタかけてました。

← 2009年賀状
干支とかガン無視。
正月だから和服→忍者って
単純な発想です。
いざ描くと、イメージ以上に
和服っぽくなくて悲しく…。
最近あまり描く機会のない
ロリ気味な顔ですね。

→ハイプリさん
髪の色を強くしてみたら、だんだん方向性が…。
洋服の感じは気に入ってます。
ちゃんとしたおっばいになってるし。



←Mの受難没表紙
けっこうギリギリで描き直しました。
色々アレなところが多いので、
表紙にしなくて良かった。
特にパンツが…どこにあるんだ…。

←アクビさん
元の髪色 ver。
こっちのままでよかったなあ…。



◆鍛冶屋の一日
珍しく女性攻めです。
WSは色んな角度がエロいので、なんとか描こうとカメラアングルがあちこちに。
髪の毛がニラの束に見えてしかたなかったです。

◆ハンターさんin西兄貴
廃兄貴の青は目立ってしまうので色味で少し悩みました。
背景の感じが旧兄貴森っぽい気がしなくもない。
ハンターさんは服の見栄えが好みなのですが、パーツが多いのが…。

◆クリエさん
表紙用の絵なのでダイレクトに見せられないけど、本のイメージは伝えたくてこんな感じに。
これからを想像させる絵になってたら幸いです。

©momobito

◆わんだらー
ゆとり三次職の弊害。
まんまストリップネタ。
服はかなリアレンジか…
腰ミノみたいなのがドットでは謎だらけなんですよ。
珍しくエロゲ塗り。
今こんな塗りしてる所ねーよとか言わないで…。

◆ソウルリンク
リンカー転職シーンをイメージしたもの。
ベタですね。
実際には出ませんがリンカーも出しました。
リンカーの色は満足。
テコンの横乳もって目立たせたかった。

◆アコさんの臨時
装備閲覧の有用性がイマイチ思いつかなくて。
一次職を描いてないなーと選びました。
でも絵は等身高いタイプ巨乳にしたつもりなのに質量にインパクトが感じられません…むずかしい。

◆受難ペア
Mの受難の2人です。
マジ子さんは転職してWizに!おめでとう。
ふたなりハイプリ子の事けっこう気に入ってます。
こういう性格の子って動かしてて楽しいから。

◆ニルエンの失態
ラヘルクエは政治色が濃いので題材として面白そうなんですけど、最低限しかやってない…。
この人は多分ツンエロ。
もう少し肉感あるほうがよかったなあ。

◆ホムクルスの反逆
バニミルトの原種と亜種両方が一応います。
好みのホムが出来るまでデリしまくる時、実は酷い惨状では?と思って。
ホム部分をSAIで塗ります。
少しずつSAIでの彩色箇所も増やしてますがマダマダです。

◆ペット化計画
アリスさんは描きやすそうなのに、ちゃんと描いた事がなかったです。
黒髪なので髪の毛の塗りを変えてみました。
明るい髪色でやると扱い難しそうだったので。
すごくどうでもいい所をかんはってる絵です。
床とか…。

Postscript

この度は『彩悪』をお手にとって頂きありがとうございます。
初のフルカラー本ということで、スタートから試行錯誤の連続でした。
本になってみないと分からない部分も多く、今もビクビクしてます。

タイトルはカラーということで私の好きな「彩」の字を入れたくて
考えました。

1つの職をメインに置く受難シリーズと区別
するのも丁度良いかなあと。

ただセンスのない私なのでお洒落な
タイトルも浮かばず、駄洒落に
なってしまいました(ノ`´)

彩悪でサイアク(最悪)と読ませる
コテコテです。すみません。

そんなタイトルなので内容もダークな
シチュが多くなりました。

初めはイラストのみだったのですが、情報量が不足気味
に思えてテキストもプラスする形式にしてみました。

ただテキストの事をあまり考えていない構図ばかりで
入れる段階でちょっと苦勞しました。

グラフィッカーじゃない私は我流なので変な手法や、
技量のたりない部分も多いです。

それでも頑張っ塗りましたので少しでも楽しんで
頂ければ幸いです。

あやせまい

◆おまけ◆

文章係りの水海月はやです。…同じ人です。

SSにも及ばない添え物のような量ですが、お話を書くという事で
此方のPNでも署名をしてみました。

エロゲのシナリオを弄る時に使っていた文字用のPNです。

(ゴーストとか名前を出せないことが8割ですけどね)

今回は厨二病っぽくダサッコイ路線を狙って書きました。

言い回しが所々「イタイ」のはわざとです。

すっかりシナリオから離れてしまい、読書量も減っている状態で
読み物として文章を書くのは辛かったです。

スペースに限りがあるため、どの視点でどこに比重を置いて書くかが
非常に見極め難かったです。

エッチな描写を文章にも入れるべきか迷いました。

今回書かせてもらったことで、リハビリができればノベルゲーム

みたいな物も作りたいなあ。と、いらぬ野心も芽生えました。

スクリプト組める人がいませんけどね!

久しぶりにへっぽこ物書きゴッコが出来て楽しかったです。

また登場する事があれば、えろすなシーンも挑戦したいです。

水海月 はや



彩悪 -SaiAku-

発行日:2009/08/15

発行元:こたちゅ屋

発行人:あやせまい

印刷:有限会社金沢印刷

連絡先:<http://www7a.biglobe.ne.jp/~ayase/>

(サイト内のメールフォーム又はコメント欄にてご連絡ください)

※本誌の複製・複写・無断転載・データ化・webアップロード
それに準ずる行為を禁じます。

※18歳未満の方の購読をお断りしております。

※作中のキャラクター・内容は全て架空のものです。

ゲーム内で該当する方がいまして一切関係ございません。

当内容に関わる迷惑行為は禁じます。

また不利益をうけた場合がありましても当方は責任を
負いませんのでご了承ください。

KOТACYУYA